

昭和36年度調査研究概況

I 総合研究

- 1、平城宮跡発掘調査（建造物・歴史研究室）
- 2、西大寺調査（美術工芸・建造物研究室）
- 3、唐招提寺総合調査（美術工芸・建造物・歴史研究室）

以上の概要については本文参照。

4、大和奈良制の調査研究（歴史・建造物研究室）
前年度に引き続き平城京の各坊制と大和国奈良制の資料の蒐集整理を行った。整理はパンチカードを利用し、文献資料の蒐集につとめた。現在まで整理できたのは大日本古文书中の東大寺文書、西大寺田園目録、延久2年の興福寺難陀免状付帳（平安遺文第9巻所収）の一部である。

5、仁和寺の研究（美術工芸・建造物・歴史研究室）
前年度に引続き、文部省科学研究費交付金（総合研究）を得て、京都国立博物館に協力して仁和寺の調査を行った（研究題目「仁和寺における美術史料の調査とその研究」研究代表者：京都国立博物館学芸課長梅津次郎）。当研究所より参加したのは森羅田能村忠雄、田中稔の五名で、それと併せて仁和寺院法金剛院庭園の実測調査、仁和寺円堂院跡発掘、工芸品、絵画、古文書等諸資料の調査研究を行った。これによって円堂院の位置の

昭和36年度調査研究概況

確認、鎌倉時代前期と見られる金銅転法輪圖や史料の価値の高い古文書などを多数発見することが出来た。

II 各個研究

1、美術工芸研究室・彫刻
前掲のごとく、興正菩薩散尊の研究、二、宝山湛海研究、三、茨城県下諸寺の調査研究が本年度の主なものであるが、それらのほかに8月に行われた提寺講堂諸仏調査（唐招提寺総合調査）を行った。また、従来試みられることの少かつた仏像の精密実測調査を蟹満寺釈迦如来像（9月）や興福寺旧山田寺仏頭（12月）において行い、さらに文化財保護委員会法隆寺中門重要文化財金剛力士像修理委員会の依頼によって同像の精密実測調査（2月・3月）を行った。特に興福寺仏頭や法隆寺金剛力士像では建造物研究室・遺跡庭園室の協力を得てそれぞれ原寸大、2分の1の精密な実測図を作製するに至つた。なお、今後ともこれらの成果を十分に利かしてさらに数多くの像例に当り、造像の歴史の実証的研究や文化財保存修理のための資料とした。

2、美術工芸研究室・工芸
昨年度、材質の物理学的、化学的調査を加えて、

研究の最終的段階に到達した唐招提寺の「レリス」については、本年度は論を纏めるべく検討を深め、その成果を十周年記念字報に収録し得た。

同じく「レリス」を納めた「金亀舍利塔」についても、一応、その目的は達せられたので、一つの試論としてではあるが成果を報告し、に舍利塔の場合には、工芸室の多年にわたる研究成果の「舍利塔の様式的研究」について集積せられた研究成果の一部であり、併せて御参照いただければ幸甚である。

その他、美術工芸研究室は従来通りの研究を行っているが、工芸室が行った調査については前述の如くである。また、前年よりの引続き研究課題に對しては年々その資料を重ねてきている。

3、美術工芸研究室・絵画
9月以來、絵画室としては、「近世に於ける南部絵画の研究」を研究課題に採り、以後資料蒐集につとめている。

とくに、南部の絵師に関しては、西大寺絵画調査の成果をうけて、散尊に關係深かつた松仏師亮尊の活動を中心に遺品のいくつかをとりあげて再度考察を試みた。

又、その一環として、唐招提寺蔵「弁才天」（板絵）・聖林寺蔵絵画調査・仁和寺絵画史料蒐集を行っている。研究を推進している。

4、建造物研究室・遺跡庭園
前掲の如く、西大寺称徳天皇御山莊跡、旧一乗院庭園遺跡、京都御苑内に残る寝殿造茶庭園遺跡の調

査が本年度の主なものであるが、それらの他に、昭和34年東大寺旧境内地の地形実測調査に引続き、今回は東大寺の依頼もあり4月に東大寺天地位跡の地形実測調査を行った。目下のところ僧房跡などが地形的に推定されるが、その確認は今後の電気探査、部分的発掘に期待される。4月下旬から5月にかけて臨川寺庭園の調査を行った。臨川寺は後醍醐天皇第二皇子世良親王の別荘川端殿のあとを寺としたものの臨川家訓には夢窓国師築造の庭園があったと記されているが、実測の結果、池、中島、築山等が確認できた。

6月下旬、元興寺極楽坊境内の防災施設に伴い、一部発掘調査が行われたが、それに先立って電気探査を行い、池跡、土層の層序等を探り、その結果を作図し、発掘調査の参考とした。

5、建造物研究室・建築、歴史研究室・考古

両室は平城宮跡発掘に主力を注いだ。その他解体修理に伴う調査として奈良県教育委員会に協力して、6月興福寺大湯屋の地下調査を行い、天治元年現在地に移されて以来4度になつて再建されたことを確認した。移建当初の大湯屋が掘立柱であったことは興味深い。7月防災施設事前調査として元興寺極楽坊の発掘を行い、小子房の一部を明らかにした。また11月中部日本新聞社の依頼により、石田茂作、浅野清とともに尾張国分寺の発掘調査を行った。発掘は塔、金堂を対象にし、それぞれその基礎を発見した。

6、歴史研究室・古文書

南都諸大寺関係古文書・經典類の調査研究の一環として、前年度に引続いて興福寺・西大寺所蔵の古文書・經典類の一部を調査研究した。9月には高野山安養院所蔵の聖教類の一部を調査し写真撮影したが、その紙背文書中から史料の価値の高い文書が多数発見された。なお6月には毎日新聞社による高野山文化財総合調査に参加し、宝寿院・持明院・物持院・大明王院などの古文書・聖教類を調査した。また文化財保護委員会による調査にも協力し、12月には教王護国寺・宝菩提院の大般若経、1・2月には醍醐寺宋版一切経を調査した。

奈良国立文化財研究所要項

研究発表

A 講演

1 昭和三十六年五月十三日 (於本所)

觀尊研究の一斑

小林 剛

平安時代末の院家建築

杉山 信三

平城宮跡出土の木簡

田中 稔

2 昭和三十六年十一月七日 (於本所)

平城宮跡発掘調査報告

権本 龜治郎

B 展覧

1 昭和三十六年五月十三日 (於本所)

仁和寺所蔵指図

坪井 清足

2 昭和三十六年十一月七日 (於本所)

平城宮跡発掘出土遺物

研究成果刊行物

奈良国立文化財研究所学報

学報	名 称	発行年度
第一冊	仏師運慶の研究	昭和29年
第二冊	修学院離宮の復原的研究	同
第三冊	文化史論叢	昭和30年
第四冊	奈良時代僧房の研究	昭和31年
第五冊	飛鳥寺発掘調査報告	昭和32年
第六冊	中世庭園文化史	昭和33年
第七冊	興福寺食堂発掘調査報告	同
第八冊	文化史論叢	昭和34年
第九冊	川原寺発掘調査報告	同
第十冊	平城宮跡(第1次・伝飛鳥板蓋宮跡)発掘調査報告	昭和35年
第十一冊	院家建築の研究	昭和36年

奈良国立文化財研究所史料

史料	名 称	発行年度
第一冊	南無阿弥陀仏作善集複製	昭和29年
第二冊	西大寺觀尊伝記集成	昭和30年